

今月号は、ジャンボタニシ対策を含めた土壌改良材を紹介します。

兵庫県西播磨地区では、数年前からジャンボタニシの被害が進んでおり、稲や野菜にも被害が拡大しています。暖冬の影響により、通常越冬しないと言われていたジャンボタニシが寒さで死滅せずに生き残り、増殖しているのが原因と思われます。

「セルエナジー」ビール酵母入り液肥(1-5-5)

アサヒグループと清和肥料工業株式会社がタッグを組んだ商品でビール酵母の効果で農作物を元気にし土壌改良にも有効です。

ポイントは、鉄を転換する効果(三価鉄→二価鉄)があり、根から養分を吸収しやすい形に変え、またジャンボタニシの嫌う鉄の形になり忌避効果も高まるといわれています。



(タニシの被害があった圃場)

今までは、殺虫剤で誘引してから休眠・石灰窒素での殺虫などが主な対策でしたがセルエナジーは田んぼからジャンボタニシを追い出すように仕向けていくという忌避効果によるアプローチであり、殺虫剤のような魚毒性はなく生態への配慮があり、且つ鉄の吸収力を上げて、稲自体もしっかりしてきます。流し込みでも使える為、省力化も図れます。ケイカルなどの鉄資材と組み合わせるとより効果を発揮します。

肥料の豆知識 ～世界が注目「バイオスティミュラント」とは～

「バイオスティミュラント」とは日本語に直訳すると「生物刺激剤」です。近年ヨーロッパを中心に注目されている農業資材カテゴリーになります。植物や土壌により良い生理状態をもたらす様々な物質や微生物の事です。

今、世界では人口問題と、食糧危機が大きく関わってきています。地球の人口は2050年に今より20億人多い95億人になる見込み。ところが15億ヘクタールの地球の耕作面積には限界があり、何も手を打たなければ一人当たりの食糧は間違いなく減少します。砂漠化もこの問題に追い打ちをかけています。

(日本バイオスティミュラント協議会より抜粋)

私がこの記事を読んだ時に感じたことは、「バイオスティミュラント」を利用してすでに野菜作り・米作りをされている生産者の方が非常に多いという事です。土作りを行い微生物の活性化を促進したり、土を柔らかくしたり、根を張らし易くする等のことは、良いモノを作ろうとする場合には当然出てくることであり今の農業では当たり前に行われている方法です。今後はその方向性でより機能的・効率的な資材が出てくる事を期待したいと思います。



弊社推奨品 / アミノ酸資材→プロアミノS52号 / 腐植酸資材→ネガアップ / 微生物資材→タキアーゼ

質問、問い合わせは(株)シマヤ 齊藤TEL:080-6133-2083 森下TEL:090-6200-7174